



『東北圏だより』

世界に届いた鶴岡の食文化ミラノ国際博覧会出展

鶴岡市

「^{ダダチャ}Dadacha ^{マメ}Mame! ^{ボノ}Bouno! (だだちゃ豆!おいしい!)」。初めて「食」をテーマに開催され注目を浴びたミラノ国際博覧会（万博）の日本館で歓声が上がりました。

鶴岡市は、世界に8都市しかない食文化創造都市として、10月2日～3日、ミラノ万博に参加し、鶴岡の食文化のPRをはじめ、ヨーロッパからの観光誘客や伝統産業の海外展開に向け、本市の魅力を発信しました。万博で一番人気といわれた日本館（最長9時間待ち）でもトップクラスの来場者数となった本市の出展の様子を紹介します。

■ミラノ万博の概要

【テーマ】地球に食料を、生命にエネルギーを

【期間】5月1日～10月31日（184日間）（鶴岡市10月2日～3日）

【来場者数】2,150万人（うち日本館228万人、鶴岡市イベント広場は2日間で、8,000人）



ユネスコ
食文化創造都市
鶴岡
UNESCO Creative City
of Gastronomy

■出展の様子



▲オープニングセレモニー
（榎本鶴岡市長挨拶）



▲出羽三山の精進料理ステージ①
〔ごま豆腐〕



▲出羽三山の精進料理ステージ②



▲奥田政行シェフ 料理ステージ
〔だだちゃ豆とはえぬきのリゾット〕



▲奥田政行シェフ 料理ステージ



▲だだちゃ豆、民田なすの漬物、
庄内柿・山ブドウジュース、
地酒試食試飲



▲鶴岡シルクの展示〔試着体験〕



▲しな織りの機織り体験
〔機織り、葉づくり〕



▲記念写真撮影コーナー
〔出羽三山〕

■2020年、世界から鶴岡へ観光客を

ミラノ万博の会場で「だだちゃ豆」コールが起き、まるでコンサート会場のような様子でした。この2日間のイベントで世界の人にだだちゃ豆をはじめとした鶴岡の食文化の魅力が伝わったと確信しています。これを機会に、だだちゃ豆と鶴岡の食文化を世界に広め、そして世界に通用する食材を作っている庄内の生産者の方々の誇りにもつなげて、農林水産業を元気にし、東京オリンピック・パラリンピックに合わせ鶴岡の食文化をPRしていきたい。

「東北酒蔵街道」始動！！～東北地域の観光競争力UPへ～

東北経済産業局

近年、日本国内で外国人の方に出会う頻度が増したと感じる方が多いのではないのでしょうか。日本政府観光局の統計によると、訪日外国人観光客数は、ここ10年でまさに倍増しています。2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が、さらに拍車をかけることでしょう。しかし、東北地域に目を向けると、驚くことに、外国人宿泊者数の都道府県別割合は、東北6県トータルでたったの0.8%しかありません。(出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」、2014年)

今や観光地としても名高い北海道には大きく水をあけられています。たった13年前の2000年には、国際線旅客数で新千歳空港が45万人、仙台空港が47万人と、仙台空港の方が上回っていました。(出所：東京航空局「管内空港の利用概況集計表」)東北地域には、魅力あふれる多様な地域資源が存在するものの、その発信が不足していると言わざるを得ません。東北地域が一丸となって、その魅力を効果的にPRし、交流人口を拡大させ、地域内消費を増加させていくことが、東北地域経済の活性化に必要なのです。

さて、東北地域は、全国新酒鑑評会の金賞受賞率が全国一で、日本経済新聞『訪ねて楽しい日本酒の蔵元全国ランキング』で上位の蔵元を占める日本有数の地域です。この有力な地域資源を利用しない手はありません。

そこで、東北経済産業局も会員である東北・夢の桜街道推進協議会は、官民連携で、世界に通じる地域資源である東北地域の“酒蔵”を紅葉や温泉、周辺観光施設を満喫しながら巡る旅「東北酒蔵街道」を創設、本年10月27日に公表しました。

近年、日本酒の輸出額が増加傾向にあることに加え、日本酒・酒蔵は、ユネスコ無形文化遺産に登録された「和食」との親和性が高く、また日本古来の四季折々の自然や文化、伝統と切っては離せない存在です。郷土料理、温泉、桜、祭り、紅葉、雪、酒器、米作り、蔵などの歴史的建築物…様々な観光資源のまさに中心に存在する、外国人旅行者を魅了する有望なコンテンツです。そうした酒蔵を活用するこの観光プロジェクトは、東北地域が一体となって知恵を持ち寄り取り組むことで、より大きな成果が期待されることでしょう。皆様方の応援どうぞよろしくお願いいたします。



第9回東北発コンパクトシティ推進研究会を開催

東北地方整備局

東北圏における「地方都市におけるコンパクトシティの考え方」や「その実現に向けた取組手法」について検討する「東北発コンパクトシティ推進研究会」（主催：東北地方整備局、後援：日本都市計画学会東北支部）を、東北圏（7県）の全市および人口3万人以上の町を対象に呼びかけ、自治体担当者や学識経験者など約90名の参加を得て、平成27年10月26日～27日に山形県鶴岡市で開催しました。

「東北発コンパクトシティ」は、広域地方計画における広域連携プロジェクトのうち、「都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト」の主要施策として位置付けられています。

これからの人口減少社会に適応して行くためには、空間的な密度を高める「コンパクト」に加え、地域と地域の繋がりを強くする「ネットワーク」が必要とされていることから、今回は「都市の土地利用」や「中心市街地の活性化」、「交通ネットワーク」や「広域連携の必要性」など多岐に渡って、活発な議論が展開されました。

1日目は、早稲田大学佐藤滋教授より「地域協働のコンパクトシティづくり 一環境構成原理をふまえて」と題して基調講演を頂いたほか、地域づくりや市町村間連携の取組について、鶴岡市、青森県より事例紹介をして頂きました。その後、リノベーションによる中心市街地活性化の取組状況として、鶴岡市まちなかキネマ、山王町江鶴亭、旧小池薬局アピスヤビルなどの現地視察を行いました。

2日目は、事前アンケートを基に4つのテーマ ①計画的な土地利用のコントロールと適正な都市機能の配置について ②街なか再生、既存ストックの有効活用について ③利便性が高く、効率的な交通ネットワークの確保について（地域公共交通網形成含む） ④都市機能の分担・維持につなげる市町村間の広域連携について（広域合併含む）で班別討議を行いました。

その後、各班から討議内容を発表して頂き、全体で問題・課題に対する解決策や取組み事例などを共有し、各先生方から全体を通した、ご講評を頂きました。

来年度は秋田県内での開催となりますので、是非ご参加下さい。

↓研究会の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://www.thr.mlit.go.jp/compact-city/>



▲現地視察（旧小池薬局アピスヤビル）



▲班別討議状況

平成27年度東北都市景観協議会が開催されました

東北地方整備局（東北都市景観協議会）

都市景観に関する施策の推進及び各市町村の情報交換を図ることを目的に毎年開催されており、今年度は、秋田県仙北市において10月29日から30日にかけて開催されました。

会議では、国土交通省から各地の景観計画に対する取り組み事例や最近の景観行政にまつわる話題等の情報提供、続いて、弘前大学の北原教授から、「ストック時代の景観づくりとは」のテーマで、まちに埋もれた資源を活用することにより、まちを育て活性化させる取り組みが、持続可能な景観施策につながっていくというお話を頂きました。

今回の主催都市である仙北市からは、全国的にも有名な角館伝統的建造物群保存地区（伝建地区）における保存の取り組みや課題等についての紹介がありました。

また、田沢湖を一望できるかたまえ山森林公園を訪れ、眺望景観の維持や観光客を増加させるための各種施策等の説明を受けたり、紅葉に包まれた角館の伝建地区を訪れ、景観づくりの取り組みや歴史的建造物の保存・活用の状況を見学しました。

本会議は、景観計画策定や景観整備事業に取り組む市町村にとって、大いに参考になりました。



▲東北都市景観協議会の様子



▲角館・武家屋敷通り
（伝統的建造物群保存地区）

編集後記

はじめにお知らせですが、東北地方整備局は11月24日より仙台合同庁舎 B 棟（仙台市青葉区本町3-3-1）に移転し、業務を開始しておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、今年も残すところ1ヶ月を切りました。朝晩の冷え込みも一段と厳しさを増し、これまで以上に体調管理に気を付けなければならないと感じております。各構成機関の皆様におかれましても、風邪など引かぬよう、ご自愛下さい。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp